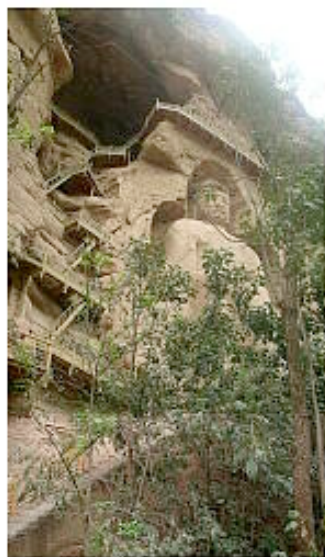




・中国

シルクロード列車の旅



◇シルクロード列車の旅概観◇

(06/08/25 ~ 9/4)

発端 いつの間にか旅も回を重ねたが、まだ中国は一度も足を踏み入れていない。途中何度か計画はしたのだが、どうも第一候補にならなかったのと、たまに行こうとすると不催行になったりして、こうなっていた。

今回は、シルクロードが魅力的だったし、書の資料豊かな西安も含まれることで、中国初入国となった。残念ながら西安では碑林に行けなかったが、全体としては、歴史的な知識を目の前に見ることができ、また中国辺境の雰囲気も味わえて、充実した旅となった。

経路は、北京経由で西安へ飛び、一寸観光した後一気に飛行機で烏魯木齊へ、そこから中国最新鋭の夢の列車「ニューオリエントエクスプレス」（日本人から見ると一寸した寝台列車程度だったが）で西安まで遡上、途中降りてホテルへ泊まりながらの観光となった。

西安

北京から飛行機で2時間半、人口700万の大都会である。行程上観光が行きと帰りに割れたのは残念だった。秦の始皇帝の巨大な墳墓の遺跡にそっくり屋根を被せた兵馬俑博物館は雄大なスケールで、中の人形も等身大以上で勢いがある。馬車や馬なども多く一大都市をなしている。西安歴史博物館、大雁塔、始皇帝陵などを回ったが、期待した碑林には行けなかった。

烏魯木齊

西安から更に3時間余り、中国ほぼ西端であるが、予想以上の近代都市。大陸内部は安定陸塊が多くて地震がないため、簡単に高層建築が建てられる。天池は確かに綺麗な湖で、中国人の観光客も多かった。

トルファン

史跡の宝庫。高昌故城、交河故城、千仏洞、アスタナ古墳群など、一日で回り過ぎて記憶が曖昧になるほどだった。何れも大規模で立派だがまだ未整備、特に

故城は、風化してしまわない内に整えたいものである。

敦厚

古来から西域との交通の要所。莫高窟は紀元4世紀から何世紀にも渡る彫刻や壁画が造られ保存されてきた大規模な千仏洞。専門家に案内してもらったが、残念ながら内部の写真は禁止。鳴沙山は巨大な砂漠、荒涼とした陽関周辺の様相は彼の漢詩を偲ばせた。

嘉峪関

万里の長城西端、懸壁長城がここにあり、無事登頂。嘉峪関長城の砦は綺麗で、当時の人形などが設えられていた。駅は立派で、これからの発展を思わせた。

蘭州

街は170万の大都市。ただ行ったのは黄河に面した炳靈寺石窟のみ。沢山の像や壁画が並んでいた。圧巻は岩壁をくり抜いた大仏像。様子もよかった。

西寧

鉄工業・機械工業が盛んで、市街外れには工場や労働者の住宅が並んでいた。塔壘寺はラマ教の寺院で、伽藍や祈り方も含めて東南アジアの寺院の雰囲気がある。ここは寺院も多く、また立派な病院も目についた。青海湖は標高3000メートルを越す高地にあり、琵琶湖の7倍、中国最大の湖である。

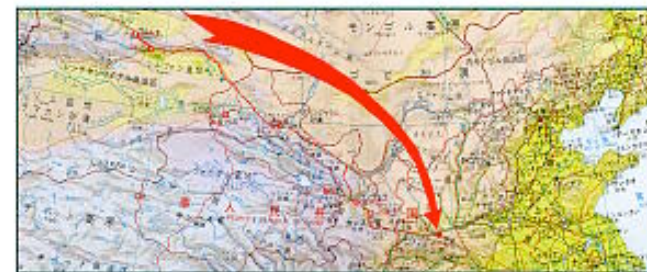
ニューオリエントエクスプレス

中国夢の超豪華列車ということだったが、実態は日本の寝台列車並み。それでも中国の近代青年ガイドの饒さんも”こんな列車初めて!”といていた。乗務員は感じはいいのだが、日本語はおろか英語も殆ど通じないのには些か閉口した。この改善は急務だろう。

(文・写真整理 片山守)

兵馬俑博物館

西安①



▲兵馬俑博物館第一坑正面からの図 等身大の兵士たちがずらりと並び、壮観としか言いようがない。



▲第二坑上部には、何体かの整った人形がケースに入れられていた



▲▶ 博物館正面と第一坑入口



◀◀ 第一坑後方の馬群



◀ 第一坑横から

▶ 第二坑は城壁などの様子がわかる様に作られている



▲四頭立ての馬車 銅製か?精密そのもの。

西安②



▲▲西安歴史博物館



▲原人像



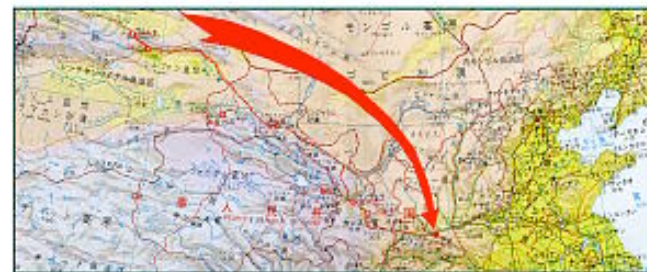
▲侍女たち どう見ても高松古墳の絵にそっくり。



▲大雁塔 残念ながら「雁塔聖教序」はわからなかった。



▶駅頭の賑わい



▼入口近くの
願掛け燭



▲正面の祭壇



◀大雁塔の受付嬢
女子高生程度の素朴さ。カメラを
向けると大はしゃぎだった。



▲華清池 玄宗皇帝と楊貴妃が
過ごしたという所。最近整備
されたらしい。



▲最終夜レストランで食事と観劇



▲秦の始皇帝陵 正面奥に高い墳の階段が見える。

ウ　ル　ム　チ 烏　魯　木　齊



▲ボコダ峰の中腹にある天池　中国人の観光客も多い。



▲天池に上るロープウェイ



▲遊覧船で見る民族舞踊



▲ホテルの窓から見る人口130万の中心地



▲天池で遊覧船に乗る



▲紅山公園の入り口



▲紅山公園から市街地を望む

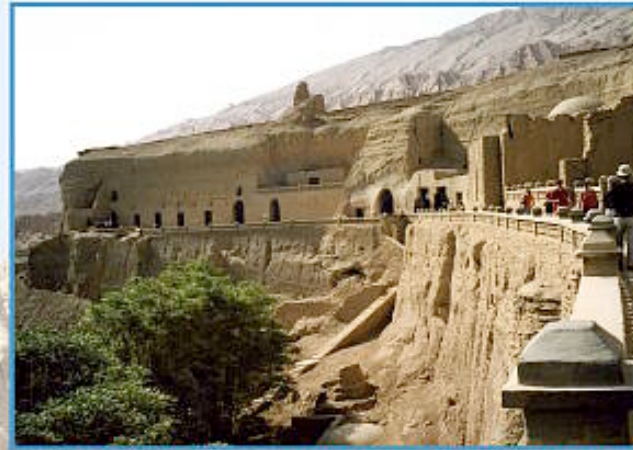


▲中国一の規模の風力発電

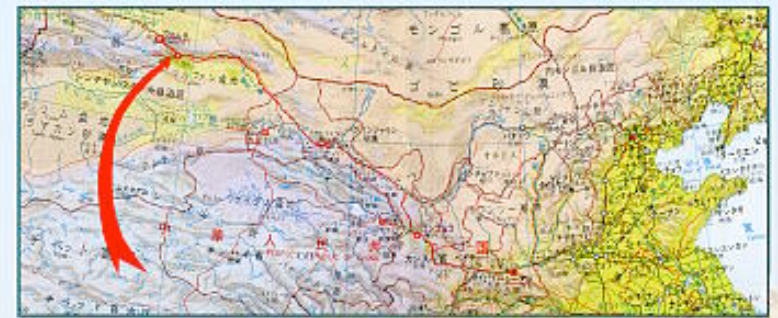
トルファン



◀▼晋・唐の墓地群
←由来を書いた石盤
↓墓地はみんな地中深くにある。



▲ベゼグリク千仏洞 一時ロシア人が住み着いて汚したらしい。



▼入り口にある博物館



↑遺跡の中心まではロバ車で行く。
←看板だけは立派だった。



▲高昌故城遺跡 ここはようやく整備が始まったところ。
←民族衣装の人と記念写真。



▲乾し葡萄屋さん
↑娘たちの舞踊サービス。



▲夕食は民族料理と踊り



↑みんなも段々上ってフォークダンス風。



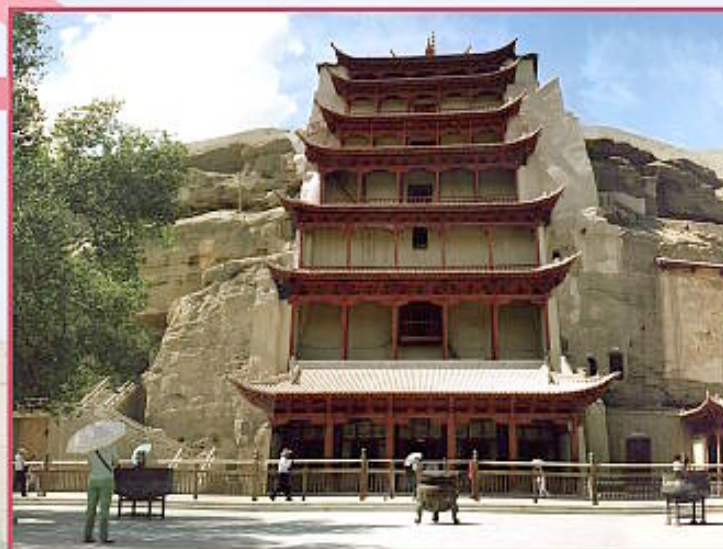
▲交河故城遺跡 大規模だが未整備。何の日陰もなくひたすら暑かった。

敦 厚

莫高窟



▲莫高窟の入口
何世紀にも渡る何百もの洞窟に
沢山の彫刻や壁画がある。



▲莫高窟 金を取って入れる入口はもっと左にある。



▶要塞から
西域を見る



鳴沙山



鳴沙山



◀入口



◀遊ぶ子どもたち



▲敦厚への駅 この駅から敦厚中心部には
ひどい道を2時間も走る。

陽関



▲彼の「西の方陽関を…」の石碑



▲入口から場所まで運ぶ車



▲入口から鳴沙山を望む 右前方に人を運ぶラクダの群れも見える。

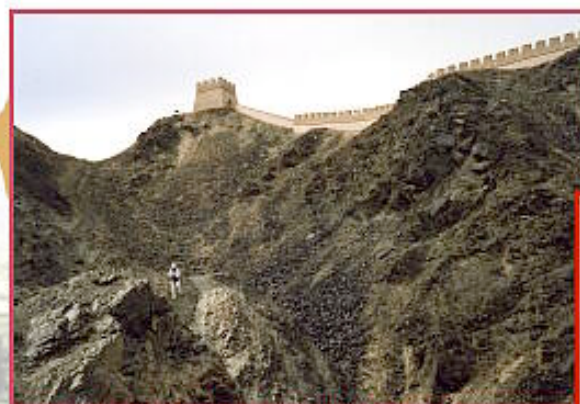


◀▲敦厚の夜店 商店街の道の中央に
露店が並んでいる。

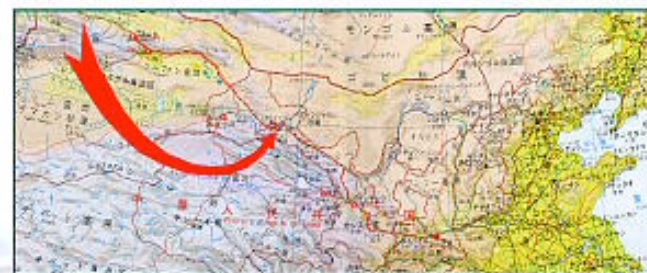
ユイコワン 嘉峪関



↑登ってみると、なかなか頂上に着かないもので。



▲万里の長城(懸壁長城) 長城の西端である。



▲砦周辺の地図



▲砦から遙かに工業都市部が見える



▲登った!! めでたく全員長城登頂です。



▲嘉峪関長城内部 覗くと左のような人形がある。



←↓なかなかリアルな人形たちである。

▼鳴る石 こすると鳥の鳴く音がする。



▲嘉峪関駅



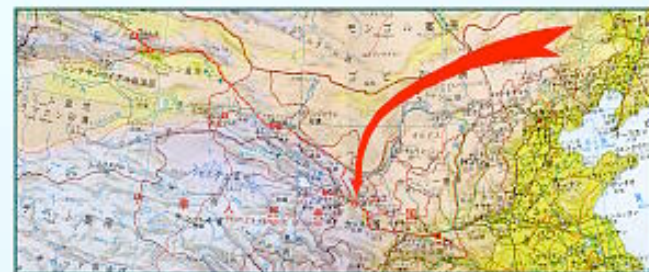
▲駅近くの広場 土地はめちゃめちゃある感じ。



▲側面から嘉峪関長城の砦を見る

ラン 州

チョウ



▲ダム ここから舟で石窟に向かう。



▲炳靈寺石窟
の上がり口



▲炳靈寺石窟大仏像 横の梯子で規模がわかる。



▲切り立った岩壁 全体にこの地層が多い。



▲炳靈寺石窟の入口
門の前には露店や売り子が
石などを売っていた。



▲岩壁に添って彫られた仏像群
壁画の色が比較的鮮やかに
残されている。



▲蘭州の中心街 人口170万の都市である。上は、駅前のお通り。



▲涅槃像 石窟のはずれにこの寺があり、大きな涅槃像が
安置されていた。



西 寧



▲塔壘寺入口に近づく
一寸気取ったアングルで。



▲塔壘寺遠景 中国には珍しいラマ教の寺。



▶ 伽藍の並ぶ
境内
全体に東南
アジアを思
わせる。



▲入口の見張り番
うまくこっそり離れた。



▲折り タイなどと同じ形の折りである。

▼遊覧船 真ん中まで出ただけ。



▲塔壘寺付属病院 ものすごく立派な建物である。



◀ 入口の看板



▲青海湖 標高3000Mを越す高地の湖。この日は天候が変わりやすく、あまり綺麗に見えなかった。



▲日月山
着飾った牛が飛び出てきた。



列車の暮らし

カラオケ



カラオケは歌い放題。
二晩楽しんだ。
←共に得意な直井さん夫妻。
(合成です。)



↑ガイドの饒さんと添乗員の
佐藤さん。

←中家さんとデュエット。



▲個室は二人用寝台車



▲みんなの憩いの場ビュッフェ



▲食堂車は殆ど貸し切り



◀▲ウェイトレスの
お嬢さんたち



▲夫人方に人気の
あった門さん
(Yan)



▲車掌の孫さん(左)
とウェイトレスの
常さん
(Chang)



▲邵屋係の史さん
(Shi)



◀今日でお別れ
西安の駅で記念写真。

子どもたち



▼果物屋の母子
(蘭州駅前の繁華街)



▲転ずかしいよ!(敦厚駅待合室で)



▼博物館の兄妹

▶塔壘寺の
境内で



▲高昌故城の売店で
呼び込みをしていた
女の子



◀ママー!
(西安駅構内)



◀▲紅山公園(烏魯木齊)で
会った少年たち

▼万里の長城で会った
高校生カップル



▼敦厚駅前食堂のおねえちゃん



▲乾し葡萄屋の
姉弟の踊り



私たち



▲千仏洞(トルファン)



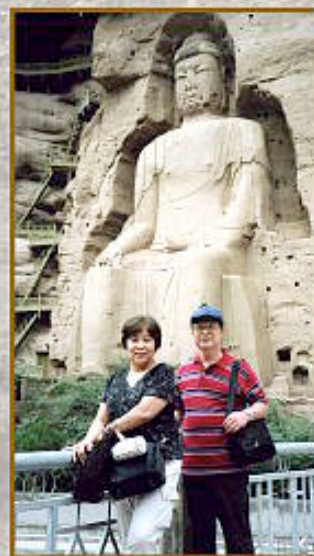
▲華峪関砦で



▲大雁塔(西安)



▲映画のロケで作られた敦厚古城
ガイドの陳さんと。



▲炳靈寺石窟大仏前



▲交河故城遺跡で"暑い!"
(トルファン)



▲莫高窟正面(敦厚)



▲行き飛行機内
で張さんと

日本に仕事で赴任中、
里帰り先が烏魯木齊だった。



◀敦厚夜店の屋台でビールを飲む
迷い子になりかかった。

シルクロードの旅仲間



日本語抜群の好青年、
日本語ガイドの饒さん



若い淑子さんはこれでも六人の
孫のお祖母さんだっ！俺も
まだ若いぞと彰さん、岩谷さん
夫妻は埼玉は川口からの参加。



どっしり構える正尚さん、おっとりしていて
時に“天然”で楽しませてくれるカヨ子さん。
岩井さん夫妻は札幌からの参加。



好奇心旺盛な忠義さんとカラオケ
上手の千珠子さん、直井さん夫妻
は大田区からの参加。
(写真は合成です。)



添乗員の佐藤さん、
ご苦労様でした



今回もっとも優しい旦那
さんに選ばれた黒木さん、
しっかり支える奥さんと
愛知県からの参加。



口八丁に手八丁、活みと元気を
併せ持つ俊幸さんと三重子さんの
小島さん夫妻は大阪市からの参加。



とても上手な独り旅。
木下さんは東大阪市
からの参加。



独特の語りで空気を和ませる
登喜一さん、おっとり構える睦
子さん、関根さん夫妻は埼玉は
浦和からの参加。



最年長と思えぬ若さと元氣さ、
中家さんは東京の多摩市から
の参加。



珍しい男性の独り旅。
独特の味でみんなに
溶け込んでいた竹内
さんは、千葉松戸か
らの参加。

ガイド

ウルムチ
曹さん



敦煌
陳さん



嘉峪関
張さん



蘭州
胡さん



西寧
尹さん



婦人方に人気の
ウェ이터ー岡さん
(YAMA)



部屋係の史さん
(SHI)



車掌孫さん (SON) (左) ウェイトレス
常さん (JOE) (右)



いろいろ
お世話に
なりました



西安
楊さん



敦煌
王さん



嘉峪関
栢さん

(背景は懸壁長城・なお、写真は一部加工しています。)



▲天池(ウルムチ)

▼塔爾寺(西寧)





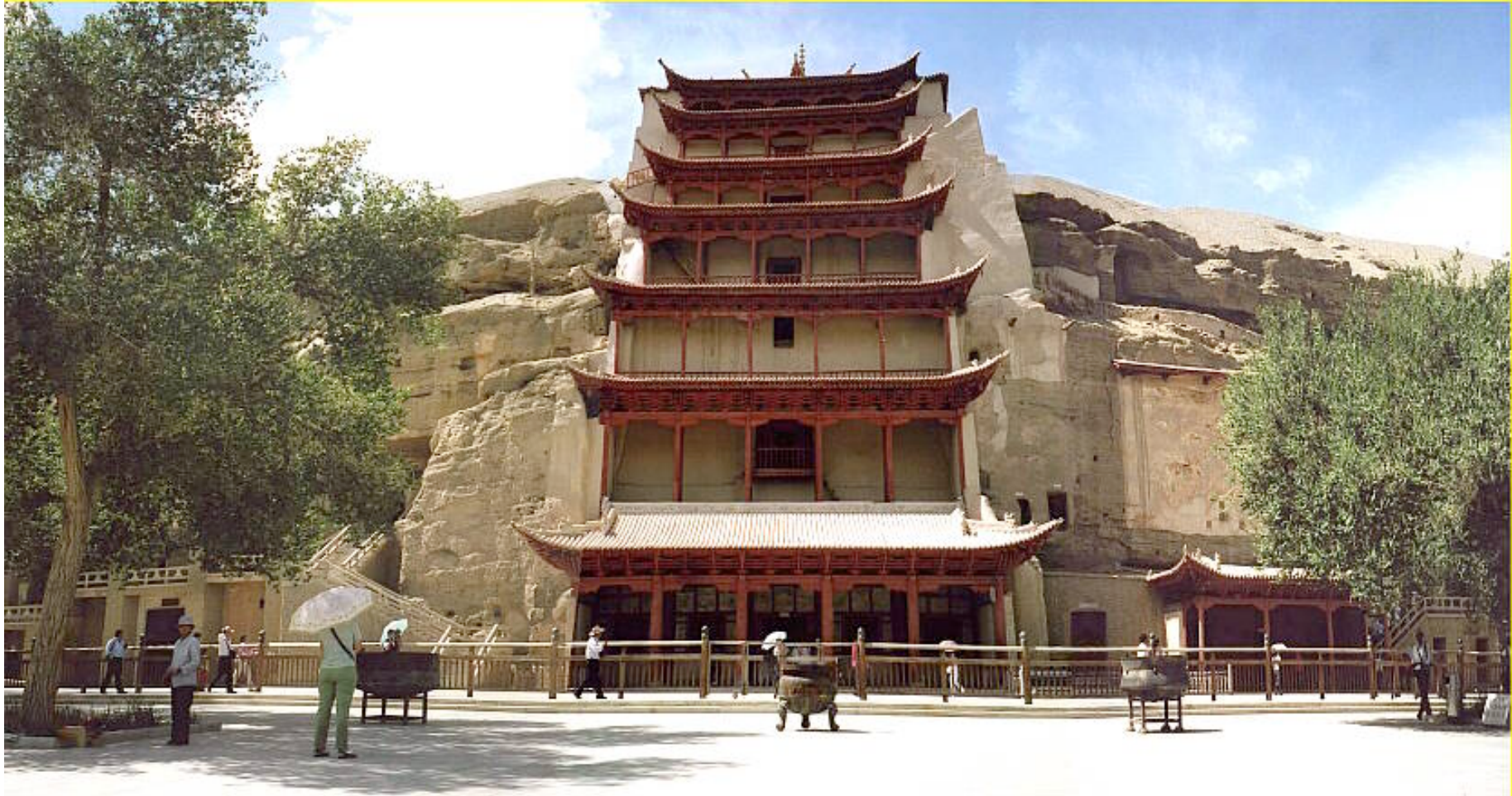
▲紅山公園から市街地を望む
(ウルムチ)



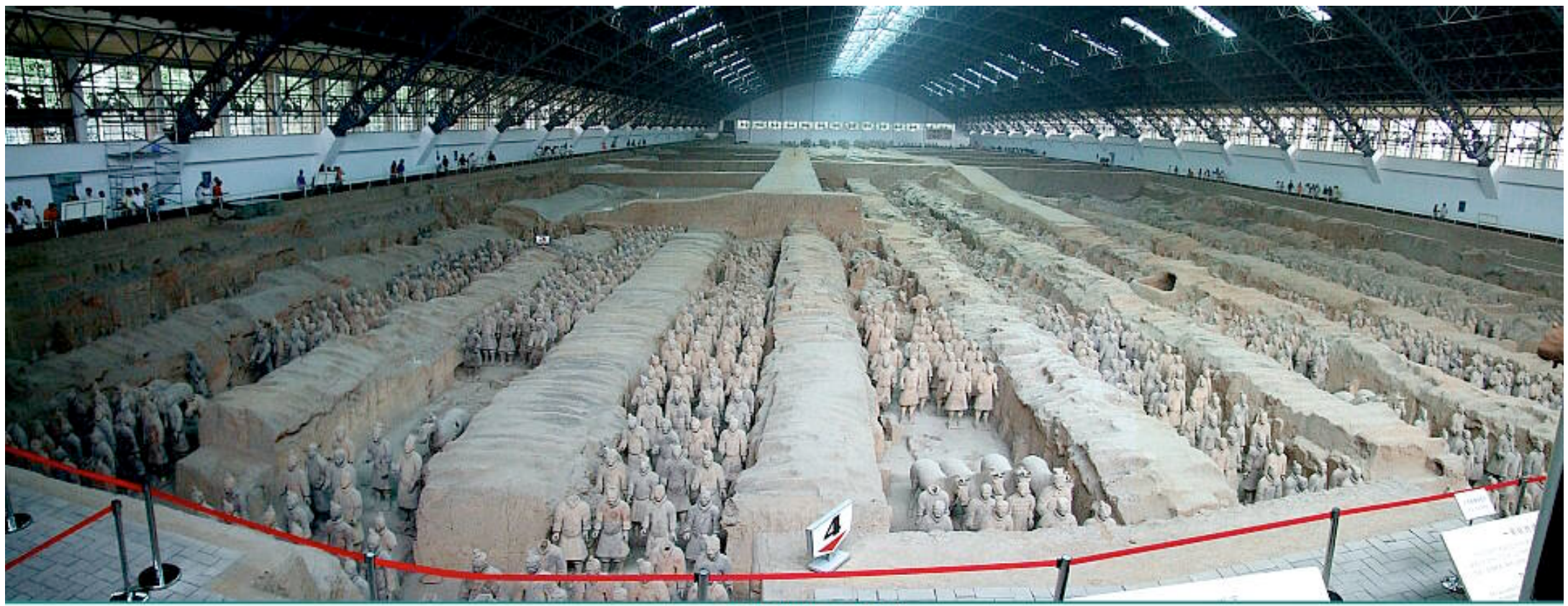
▲靖靈寺石窟の大仏像(西華)



◀ 月牙泉入口から
鳴沙山を見る(敦煌)



◀ 莫高窟(敦煌)



兵馬俑（西安・一号坑）



交河故城遺跡（トルファン）